

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名（南伊勢高校 度会校舎）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献する“ひと”を育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自立に向け、基本的な生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい 教職員像	○共通認識のもと、生徒に寄り添い、生徒の個性を最大限伸ばさせる教職員 ○小規模校・校舎制の利点を活かす新しい発想を創造し、活力ある教育活動を展開する教職員 ○地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを行う教職員 ○総勤務時間削減を意識し、ワークライフバランスを大切にする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒・保護者> 基礎学力の定着。規律ある充実した学校生活。希望進路の実現。 <地域社会> 将来的に、地元地域で生活し、地域社会に貢献できる人材の育成。 <中学校> 学習面、生活面で中学校からの指導の継続。将来自立できるための力の育成。取組内容の中学生及びその保護者への浸透。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<保護者> 学力向上。確かな進路保障。 学校との信頼関係。 <町・町教育委員会> 地元地域の活性化を担う人材育成。 生徒の進路保障。 <地元企業等> 将来的に、地元地域に勤め、地域社会を支えてくれる人材の育成。 <地域活動団体> 生徒による地域の活性化への貢献。		<保護者> 学校と連携した家庭での生活指導・学習活動への協力。 <町・町教育委員会> 地元中学校との連携を円滑に進めるための協力。地元への就職支援。 <地元企業等> インターンシップ等教育活動への協力。 地元企業の採用増加。 <地域活動団体> 生徒が活躍できる多様な機会の提供。
(3) 前年度の学校関係者評価等		・バイクの指導は、学校だけでは困難。保護者の協力が不可欠。保護者向けの啓発や注意喚起も必要。 ・学力向上には授業規律の徹底が重要。授業中の姿勢やルールなど、細かなことも含めて明文化し、教職員で共有し、年度当初にそれをみんなで実行することが大切。 ・授業規律の中に、人権の視点を入れることで「やさしいクラス」になることがある。例えば、「班をつくるときは、机をきちんとくっつける」「欠席の子の机も班に入れる」「欠席の子の配付物は、きちんとたたんで中にしまう」など。 ・授業で大切にしたいことを例えば10個に絞ったとしたら、その中でも「今年度は特にこの3つを大切に」など、重点を置くことで進むこともある。 ・高校における指導の難しさには、小中からの積み残しもある。それを少なくしていくために、小学校と高校の教職員で話し合う機会があって、「こういう力をつけてもらいたい」といった話ができるといいのではないかな。 ・教職員の授業力を上げるため、相互に見合う機会をつくるのが大切。 ・交流学习は重要。茶摘み等の体験も含め継続してほしい。かつては茶摘みのときに小学生と交流していた。あれも互いによい機会だったと思う。	

(4) 現状と課題	教育活動	多様な生徒が在籍するなかで、基礎基本の定着を大切にした教育の実践と生徒一人ひとりへのきめ細かな指導により、地域から一定の評価を得ている。 また、福祉活動や「出前図書館」など地域と連携した取組を推進している。 今後、こういった取組をさらに充実させることにより、生徒一人ひとりの成長を促し、希望進路の実現に努める必要がある。
	学校運営等	地域に密着した県立高校として、地域への貢献も視野に入れ、ボランティア活動・地域行事への参加等さまざまな取組を行い、地域から一定の評価を得ている。 今後さらに、学校の取組を地域の中学生やその保護者に浸透させ、入学者を確保していく必要がある。 また、南勢校舎と共に一つの学校としての機能を強化していく必要がある。併せて、両校舎の教職員数の減少を受け、様々な校内組織の見直しを行う必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	・ 自他の命を尊重し、社会的自立に向けて基礎基本の学力と差別をなくす実践力を育む。 ・ 高い自己肯定感を持ち、自ら考え適切に行動できる力を育む。 ・ 個々の能力・適性に応じて、自らの将来を主体的に考え、希望進路の実現に向けて積極的に取り組む生徒を育成する。 ・ 基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀をしっかりと身につけ、心身ともに健康な生徒を育成する。 ・ 二校舎を取り巻く自然環境や文化を活かした教育活動を行うとともに、合同の部活動等を通じて生徒の交流を促進する。
学校運営等	・ 地域の多様な主体と協働し、地域からより信頼され、選ばれる学校づくりを推進する。 ・ 南勢校舎と共に一つの学校としての機能を強化していく。 ・ 業務改善を積極的に行い、勤務時間の縮減に努めることにより、より質の高い教育を目指すとともに、ワークライフバランスに配慮しながら教職員の一層の資質向上に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導等の充実	(1) 基礎学力の定着を図り、基本的な学習習慣を確立させる。 【活動指標】日頃から授業規律の徹底を図り、学び直し教材を利用した学習を行うとともに、基礎力診断テストを1・2年生対象に年3回、3年生対象に年1回実施する。全教員による補習を実施する。 【成果指標】基礎力診断テストによる基礎・基本養成レベル(D3ー)の生徒が10%未満となり、上級判定となる生徒が増える。 (2) 校則にかなった服装を徹底させ、規律を守り、落ち着いた生徒を育成し、落ち着いた学校を浸透させる。 【活動指標】学期に2回程度、頭服指導を行い、また日常からチェック制度を維持し、指導を行う。 【成果指標】生徒は自己管理能力を高め、高校生としてふさわしい行動・身なりを身につける。 (3) 生徒が安全に安心して学校生活が送れるよう教育相談体制の充実に努めるとともに、生徒はもちろん、保護者・地域と連携し、いじめを許さない学校づくりに取り組む。 【活動指標】いじめ防止に関わるアンケートを学期に1回行い、日常から生徒指導、教育相談の機会を設ける。 【成果指標】生徒は小さな問題でも教員に相談することができ、安心	(1) 一部の学年では授業規律の乱れがあったが、現在は落ち着いている。成果指標には届かなかったが、部分的にみると改善傾向もある。【成果指標】は未達成(24%)。 (2) 頭髪服装に大きな乱れはない【成果指標】は達成。 (3) いじめの認知件数は3件。現在は解消している。その後も担任・クラブ顧問・養護教諭等が連携をとりながら、見守りを続けている。4月と11月には生徒会役員を中心にピンクシャツ運動を実施【成果指標】は達成。 (4) 外部講師(南部自動車学校)を招いての交通安全教育を、1年生対象に実施。交通マナーについて、近隣住民等から苦情があり、一層の指導が必要。【成果指標】は達成。	◎

	して学校生活を送れることができる。 (4) 交通マナーを守れる生徒を育成するとともに、交通事故がなくなるように取り組む。 【活動指標】自転車安全指導を企画し、外部から講師を招いて安全教育を行う。また毎月、期間を決めて街頭での交通指導を行う。 【成果指標】生徒に交通安全の意識が高まり、登下校中の危険が減少する。また、交通ルールを遵守する意識が高まる。		
ICT を活用した授業等の推進	(1) 教職員が以下の視点を大切に ICT の活用に取り組む。 ・ICT を活用することにより、個々の生徒に応じた指導を推進する。 ・生徒の ICT 活用能力を育てる。 ・ICT を活用することにより、「協働的な学び」を推進する。 ・ICT を活用することにより、何らかの理由で登校できない生徒の学習や、非常変災等による臨時休校時における学習を保障できる体制をつくる。 【活動指標】ICT を活用した授業等の推進するための教職員研修を2回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりの ICT 活用のスキルが向上する。	(1) ICT を教育活動の中で日常的に使用する教職員は増加している。11 月に GIGA スクールサポーターによる教職員研修を実施。それ以外は全体研修ではなく、個々に疑問点を相談する形で研修を行った。【成果指標】は達成。	
キャリア教育の充実	(1) 社会人として必要な態度・マナーを習得させ、将来にわたっての社会貢献を考えさせる。また、自らの適性を理解し、自己肯定感を持つとともに、生きることの尊さや生命のかけがえのなさを理解し、自他の生命を尊重する姿勢を育てる。 【活動指標】進路ガイダンスや手厚い個別指導を行う。 【成果指標】就職内定、公務員試験合格、進学志望校合格 100%	(1) 個々の生徒の希望を聞き取り、その実現に向けて個別的な支援を行った。公務員志望の1人を除き、希望する就職内定・進学志望校合格を達成。12 月には外部講師を招き「命の授業」を実施した。【成果指標】は達成。	※
改善課題			
・基礎学力の定着が年々困難になってきている。就職・進学にはもちろん、その後のためにも高校時代の学習が重要であることを生徒が理解できるように努めていく必要がある。 ・友人関係のトラブルからいじめに発展するケースがある。教職員のいじめの認知・対応の体制は整ってきているが、トラブルをいじめに発展させない力を生徒に培っていく必要がある。			

(2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1) 教職員一人ひとりのコンプライアンス意識をよりいっそう向上させる。 【活動指標】学校信頼向上委員会を積極的に活用し、不祥事根絶に向けての教職員研修を年3回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりに、コンプライアンスに主体的に取り組む姿勢が育成される。 (2) 教職員一人ひとりの人権意識をさらに向上させる。 【活動指標】教職員対象の人権講演会を年1回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりにより、より充実した人権教育が	(1) コンプライアンス研修を3回実施。【成果指標】は達成。 (2) 12月に外部講師を招き、SNSに関わる人権問題について講演会を実施。また、一人1回、外部の人権研修会に参加した。【成果指標】は達成。 (3) 特別な支援が必要な生徒については、県特別支援教育課と連携するとともに、日常的に関係職員で情報を共有し、対応している。8月にかがやき特別支援学校より、10月には伊勢保健所より講師をお	◎

	実践される。 (3)教職員一人ひとりが、特別支援教育の観点から、生徒の実態に即した対応が出来るようにする。 【活動指標】特別支援教育研修会を年1回実施する。 【成果指標】生徒の困り感に対して、特別支援の視点から柔軟な支援がなされる。 (4)防災・防犯等に係る非常時の対応力の強化を図る。 【活動指標】防災訓練等を年2回実施する。 【成果指標】生徒の安全・安心な学校生活が保障される。	招きし、精神疾患に係る研修会を行った。12月には本校SCの協力を得て、カウンセリングに係る研修を実施。【成果指標】は達成。 (4)9月に県教育委員会教育総務課学校防災・危機管理班による防災講話を実施。また本校職員による学習も別途実施した。12月に消防署の協力を得て、火災時の避難訓練を実施。【成果指標】は達成。	
情報提供による信頼の構築	(1)学校の教育活動や生徒の取組等について、報道機関等へ積極的に情報を発信する。 【活動指標】 ・行事等の取組を年5回以上、報道機関へ情報提供する。 ・ホームページによる情報提供を適宜行う。 ・授業公開、学校見学会等を年2回実施する。 【成果指標】 ・地域の広範囲に学校の取組が伝わる。 ・ホームページが最新の情報を得るツールとして定着する。 ・中学生やその保護者等に学校の様子が正確に伝わる。	(1)・10月に授業公開を実施。参観は県人権教育課指導主事のみに限定した。 ・報道機関への情報提供は2回にとどまっている(国際交流出前授業、図書館イベント)。 ・ホームページによる情報提供は随時行っている。 ・学校見学会は8/23に24人、8/24に2人が参加。参加中学校は、度会、南勢、南島、玉城、城田、伊勢宮川、倉田山、小俣、明和。 ・中学校への説明会は以下で実施。度会、玉城、南勢、南島、大宮、倉田山、伊勢宮川、港。	
働きやすい職場環境づくり	(1)総勤務時間の縮減に努める。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100% ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合 100% 【成果指標】 ・1人当たりの月平均時間外労働時間 13時間/月 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・年360時間を超える時間外労働者の人数 0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数 21日/年	【2月末現在】 ・設定日に定時退校できた教職員 85.5% ・計画日に休養日を設定できた部活動 100% ・放課後に60分以内の会議 100% 【成果指標】は未達成がある。部活動指導時間がネックとなっている。 ・1人当たりの月平均時間外労働時間 12.9時間 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 9人 ・年360時間を超える時間外労働者の人数 1人 ・1人当たりの年間休暇取得日数 21.99日	
改善課題			
・公務員による不祥事が発生していることから、コンプライアンス意識の向上と、不祥事を発生させない体制づくりの取組が今後とも必要である。 ・人権教育、特別支援教育に関わる研修を、より本校の実態に即したものとなるよう、継続・充実させていく必要がある。 ・時間外労働時間の縮減のため、業務内容の精選が必要である。			

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次へ の取組方向	・ SNS の問題に関わってはコミュニケーション力の育成が必要になる。発信するときに相手の受け取り方を想像する力など、社会性をつける学習が大切。 ・ 社会性を身につけるには、友人関係をうまくつくる経験をさせることが大切。 ・ SNS の問題をはじめ、学校だけの取組では効果が期待できない事柄が多くある。そういったことは、家庭との連携が不可欠。家庭を巻き込手立てが必要。 ・ 失敗を恐れ、失敗するとそこから立ち直れない子どもが多い。学校は失敗する経験もできる場であることが大切。 ・ 失敗を恐れる傾向は、最近の若い先生にもあるのではないか。一度失敗したり叱責を受けたりすることで委縮してしまいがちであるように思う。管理職がそれをフォローして育成することが大切。
-----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	・ 教育活動全般において、コミュニケーション力を、伝える力・他者を理解する力の両面で育成する。 ・ 学校行事等において、生徒たちがグループ等で主体的に活動する場を確保する。 ・ 人権学習等において、SNS について学んだり、他者のことを想像する学びを確保する。 ・ 生徒どうしが互いのことを理解し合う場を、意図的につくっていく。
学校運営につ いての改善策	・ 管理職は、教職員の様子を日常的に観察するとともに、迷いや困ったことがあったときに相談しやすい雰囲気づくりに努める。 ・ 教職員間で互いに迷いや困っていることを出し合い、話し合う場をつくるなど、経験年数の少ない教職員が学べる機会を保障していく。